



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

リエぞん

Liaison

vol.50

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和4年8月

医療関係者の皆様へ 「リエぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

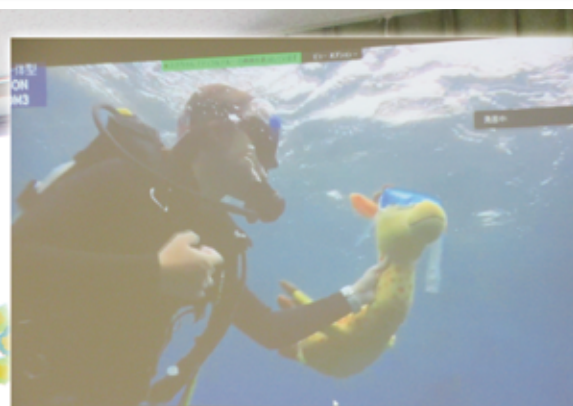
令和4年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める

リモートで 沖縄の海を体験!!

沖縄ダイビングツアー

～ナチュラルブルーさんと沖縄満喫!～



- 「多様性」の時代にチーム力で地域に貢献 2
- 当院 NST（栄養サポートチーム）の取り組み 3
- 部門紹介－地域医療連携室 8
- 着任ご挨拶 9
- 連携施設のご紹介コーナー VOL.12 10

「多様性」の時代にチーム力で地域に貢献

国立病院機構奈良医療センター 事務部長 西川 俊之



本年4月に着任いたしました事務部長 西川です。奈良県での勤務は初めてですが、これまでに和歌山、京都（宇多野）、兵庫で、重心・筋ジス、神経難病等の診療にあたる奈良医療センターと同じような病院での勤務も経験してきました。

私はラグビーが好き（もっぱら観戦する方です。プレイヤーとしては「へなちょこ」でした。）なので、少しそのお話をさせていただきます。

一昨年の「ラグビーワールドカップ日本大会」で有名になったラグビー日本代表チーム。メンバーの約半数が日本以外の国にルーツを持つ選手でした。オリンピックや、サッカーワールドカップなどでなじみのある「国別対抗戦」とは何か違ってきます。国籍を絶対条件にしない代表選考基準のため、違和感を覚えた方は多いと思います。それでも、日本に根付き、母国の代表になる可能性を捨てて日本の代表になった選手を日本国中が受け入れ、声援を送りました。これは今、まさに世界中で注目されている「多様性」に他なりません。

ここからはこの「多様性」についてのお話です。

もともと「医療」という分野は、複数の職種が同じ現場で業務に当たる、他にはあまり見られない特殊な職場ですが、当院のような医療と福祉を取り扱う病院は、その職種もさらに多くなります。

医療の分野では「医師」「看護師」「薬剤師」「放射線技師」「検査技師」「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」「臨床心理士」「臨床工学技士」「管理栄養士」など、直接医療に携わる職種だけでもたくさんありますが、それに加えて福祉的な部分を担う「児童指導員」「保育士」「介護福祉士」など。さらに事務的な側面を担う「医療社会事業専門員」「診療情報管理士」などなど・・・免許職種という意味では、「電気士」や「ボイラー技士」「調理師」などの職種も病院を運営していく上では必要です。

ワールドカップで流行した「ワンチーム」という言葉は、医療と福祉を取り扱う当院、奈良医療センターにぴったりの言葉だと思います。

これだけ多様な職種の人間が「患者さんのため」という一つの目的のために集まる組織は珍しいと思います。

来年フランスで開催されるラグビーワールドカップに向けて、7月には開催国のフランスがわざわざ日本にやって来て、日本代表と対戦し、11月にはフランスの地で再度対戦します。そのほかニュージーランドやイングランドといった世界ランキング上位のチームが、ワールドカップ本番を前に日本と対戦を組んでくれるほど、日本代表チームは強くなりました。

当院もラグビー日本代表のように「多様性」を武器に「チーム」の力で地域の医療と福祉に貢献していきたいと思います。



当院NST(栄養サポートチーム)の取り組み

栄養管理室 田中 理恵

「甘辛く炊いた豚肉が食べたいなあ。」入院先から一時的に自宅退院した祖父に食べたいものを尋ねると、食べ慣れたいつもの料理を希望しました。祖母に伝え、甘辛く炊いた豚肉を作ってもらい「美味し、美味し」完食です。

祖父は入院中、断固として病院食を拒否し、食事をほとんど食べていませんでした。栄養が十分に摂れていなかった事もあり、段々と衰弱していき、最後は検査後に突然亡くなってしまいました。検査すら耐えうる体力が無かったのだらうと思います。

当時、学生であった私は自宅で食べたいものを聞き取るぐらいしか出来ず、入院中の栄養をどうにか出来なかったのだらうか、と自分の不甲斐なさに涙しました。もっと栄養が摂れていたら違っていただかもしれない・・・。

一方、祖母は認知症になって色々な事が分からなくなっていました。食事が配膳される音が聞こえると自ら取りに行こうとするほど食欲旺盛で、90歳まで長生きしました。

栄養を摂ることの大切さを、改めて二人に教えてもらったエピソードです。

“栄養”とは『生物が生命を維持し生活していく為、体外から物質を取り入れ、からだを成長させ、機能を保ち、エネルギーを得ること』と定義されています。

つまり、栄養が不足すると生きていけません。栄養が不足した状態では、体力、気力、免疫力が低下し、治療効果が得られない事もあります。

入院患者さんには、環境変化になじめず食事を拒否してしまう、食欲が出ない、食欲はあっても食べたり飲み込んだりが出来ないなど、様々な栄養不足の状況があります。

当院では、栄養が十分に摂れていない患者さんに対して、栄養サポートチーム（NST, Nutrition Support Team）が介入しています。医師（脳神経内科医師、内科医師）、看護師（病棟看護師、摂食嚥下障害看護認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師）、薬剤師、管理栄養士で構成しており、それぞれの視点から患者さんの適切な栄養補給方法を検討し、栄養状態を改善させることに努めています。さらに、摂食嚥下障害看護認定看護師と皮膚排泄ケア認定看護師とともに、摂食嚥下（嚥下・飲み込む）チームや褥瘡（床ずれ）チームとの連携を図っています。

各メンバーの役割として、医師は、病態から食思不振や消化器症状など、栄養障害リスクとなる要因を検討します。また治療方針や病態についてスタッフと情報共有を行います。心不全はないか、腎臓や肝臓の機能は大丈夫か、なども確認します。

管理栄養士は、患者さんの食事摂取量を把握し、実際にどの位の栄養が摂れているのか、治療に必要と考えられる栄養量を満たしているのかを確認します。食事が進まない患者さんには、ベッドサイドで直接お話を伺い、食べやすくする工夫や嗜好に合わせた食事調整を行っています。1回の食事量が多い患者さんでは、主食、副食量を減らし、その分の足りなくなる栄養を、少量で栄養が摂れるゼリーやジュース（補助食品）などを組み合わせて確保します。甘いかわからないか、クリーミーかさっぱりかなど、患者さんの嗜好に合わせて少しでも食べられる量が増えるように調整します。

薬剤師は、食欲低下や消化器症状、覚醒状態に係る薬がないかや、薬と栄養剤との相互作用、

点滴内容、栄養点滴の組成バランス（糖質、アミノ酸、脂質、ビタミンミネラルなどの微量元素）が整っているかなど、薬剤に関する事の確認や調整の提案を行っています。心臓や腎臓に問題があれば、水分量や薬の調整なども提案しています。

看護師は、データ上の栄養状態だけではなく、普段の食事や日中の様子、覚醒状態、全身状態、痰や便の状態、活気、嗜好や栄養に対する想いなど多くの情報をチームと共有し、患者さんの気持ちに添って栄養管理の早期対応を行います。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理療法士などリハビリスタッフからの、訓練内容や食事動作、摂食嚥下状態、認知機能や心理面などの情報も栄養評価の参考にしています。

活動内容として、栄養（食事）摂取状況、検査データ、体重変化、嚥下状態、消化器症状などをみて栄養評価を行い、栄養障害がみられれば、主に食事変更の提案（食形態・補助食品追加など）、経腸栄養剤の提案（開始時期、栄養剤の選択、投与量、投与速度など）、点滴内容の提案（栄養組成など）、検査や服薬の調整などを、患者さんの病態や状態に合わせて行います。

当院に多い神経筋疾患や脳卒中、重症心身障害などで摂食嚥下（嚥む・飲み込む）が難しい患者さんには、摂食嚥下チームや言語聴覚士と、嚥下機能に合わせた食事を提供します。口から十分な栄養を摂れない場合、状態や希望に合わせて経腸栄養（チューブを使って栄養バランスの取れた栄養剤を胃や腸へ注入する）や、静脈栄養（点滴で栄養を入れる）などを提案しています。経腸栄養の場合は、下痢や便秘、嘔吐などの消化器症状や呼吸状態に変化がないか確認し、静脈栄養の場合は、十分に栄養が入っているか、栄養に偏りがいないか、水分量は調度良いかなどについて検討しています。経口摂取や経腸栄養といった腸を使った栄養補給は、免疫力を確保したうえで栄養状態の向上に繋がります。静脈栄養のみの場合でも、腸が使えないか、口で食べられないかを常に評価し検討しています。

また栄養が十分に摂れずに痩せて骨張り、皮膚が弱くなってしまうなど様々な原因で褥瘡（床ずれ）が出来てしまった場合、褥瘡が治るように十分な栄養が確保出来るよう目標栄養量を検討し調整を行います。亜鉛や鉄などの微量元素や、ビタミンも皮膚を再生するのに必要な為、過不足が無いかなど評価します。褥瘡や皮膚治療専門の看護師と傷の治り具合を共有し、状態に合わせた細やかな調整も行っております。

ここで症例をご紹介します。

神経変性疾患の70代女性の患者さん。普通食を召し上がっていましたが、徐々にむせ込む回数が多くなり、口から十分に栄養や水分を確保出来なくなった為、鼻からの経腸栄養導入目的で入院となりました。安全に目標栄養量が充足出来るように栄養内容の検討を目的にNST介入となりました。

初めての経腸栄養導入にあたって、逆流や誤嚥、下痢や腹痛などの消化器症状が無いかをチームで評価しながら、栄養剤の選択と1回投与量や注入にかかる時間を調整しました。一時、胃に栄養剤が溜まった状態になり、呼吸状態が不安定になりましたが、消化吸收の良い栄養剤への変更や消化を促すお薬をNSTとして提案し調整することで、開始数日後には安定して経腸栄養で栄養を確保する事ができました。

患者さんは、食事を食べたい気持ちが強かった為、耳鼻科医師を中心とした摂食嚥下チームと連携し、安全に食事が摂れる方法を内視鏡検査などで確認しながら、ゼリー食、ミキサー食、ブレンダー食、刻みとろみ食と食事形態をステップアップしていきました。途中、病棟看護師より刻みとろみ食では、食事時間が長くなりむせやすいと情報を受け再度形態調整を行ったりもしました。最終的には、経口摂取量が増え、食事だけで目標栄養量を充足出来た為、経腸栄養を中止する事ができました。

また患者さんの希望である自宅退院に向け、経口摂取のまま退院出来るように、患者さんご家族、

当院スタッフと在宅医療スタッフでカンファレンスを実施し、入院中の食事について情報共有を行いました。ご家族（夫）は誤嚥や窒息、嚥下食の準備に不安がありましたが、話し合いを重ねたことで、自宅でやるケアに対して安心され、患者さんは、適切な形態で好きなものを食べることが出来ました。

当院は「面倒見のいい病院」をモットーにしていますが、NSTでも、入院期間だけ栄養を充足させる事を目標とせず、退院後も途切れることなく栄養管理が出来る様に検討を行っております。

これからもNSTメンバー一同、栄養不良の患者さんが少しでも減るように、病院一丸となって頑張っていきたいと思っております。

① NSTカンファレンス（検討会） 中



カンファレンスの様子です。脳神経内科医師、内科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士で患者さんの栄養状態が良くなるように、色々な視点から話し合っって栄養内容を決めています。

② 栄養士のミールラウンド



NST介入中の重症心身障害の患者さんが口からどれだけ食べられているかを、言語聴覚士と一緒に確認しています。食べきれなかったミキサー食は胃瘻から注入し、栄養量の不足が無いように調整します。



1回で食事をたくさん食べられない為、食事量を減らし少量で栄養が摂れる補助食品を提供。お粥は好みでない為、パン粥に変更。全量摂取！



嚥下力が弱い慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者さんの食事状況を言語聴覚士と一緒に確認中。少しずつ口から食べられる量が増え点滴の量を減らすことが出来ました。



栄養のあるイチゴ味のジュース（補助食品）を飲んでもらっています。

昨日はジュースを残されていましたが、今日は栄養士がお声掛けするとごくごく飲んでくださいました。顔を見てお話す事は大事ですね！

食事時間に病棟を回って皆さんの食事状況を直接確認するように心がけています！

③ 当院の嚥下食

	嚥下食1	嚥下食2-1	嚥下食2-2	嚥下食3	嚥下食4
					
形態					
説明	ゼリー 均質で、付着性・凝集性・硬さ・離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの。	ミキサー ミキサー・ピューレ・ペースト食などで、均質でなめらかで、べたつかず、まとまりやすいもの。スプーンですくって食べることが可能なもの。	プリンダー ミキサー・ピューレ・ペースト食などで、べたつかず、まとまりやすいもので不均質なものも含む。スプーンですくって食べることが可能なもの。	ミキサー・ピューレ・ペースト食など 形はあるが、押しつぶし易、食塊形成や移送が容易、咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの。多量の離水がない。	軟菜食より軟らかくトロミ付き 硬さ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの。箸やスプーンで切れるやわらかさ。大きいおかずは一口カットする。
基本の主食	なし(希望あれば付加可能)	粥ゼリー	全粥	全粥	全粥
エネルギー	800kcal	1400kcal	1400kcal	1450kcal	1500kcal
たんぱく質	30g	60g	60g	60g	65g
脂質	20g	40g	40g	40g	45g
炭水化物	125g	200g	200g	200g	200g
塩分	2g	7g	7g	7g	8g

日本摂食嚥下リハビリテーション学会2022に準じた食事形態を提供しています。

食事形態一覧表 (施設名… 医療医療センター)

西暦 2022年 2月現在

形態	主食	副食	飲料	デザート																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
----	----	----	----	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑥ 経腸栄養の投与速度管理



経腸栄養投与中の患者さんに、注入ポンプを使用して投与速度を厳密に管理しています。
下痢や嘔吐などの合併症予防に努めます。

⑦ 内視鏡検査（VE）による食事形態の検討



摂食嚥下チーム（耳鼻科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士、管理栄養士）による内視鏡検査（VE）場面。実際に食物を食べてもらっている状態で、飲み込みが問題ないかなどを確認しています。状態に応じて食事の形態を相談していきます。

部門紹介

地域医療連携室



地域医療連携室では、地域連携室室長 1 名、専門職 1 名、看護師 3 名、MSW 2 名、事務クーク 2 名の 9 名で、前方支援、後方支援、診療予約等に対応させて頂いています。

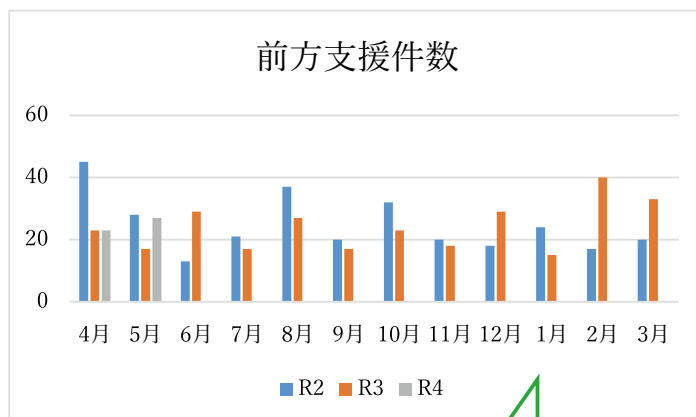
「面倒見のいい病院」の病院目標に基づき、患者・家族と向き合い話し合いを重ね、よりよい支援ができるようにしたいと考えております。

昨年度てんかん支援拠点施設に指定されたことにより、てんかんコーディネーターを 2 名配置しています。てんかんに

ついてのご相談があれば、いつでも対応させていただきます。

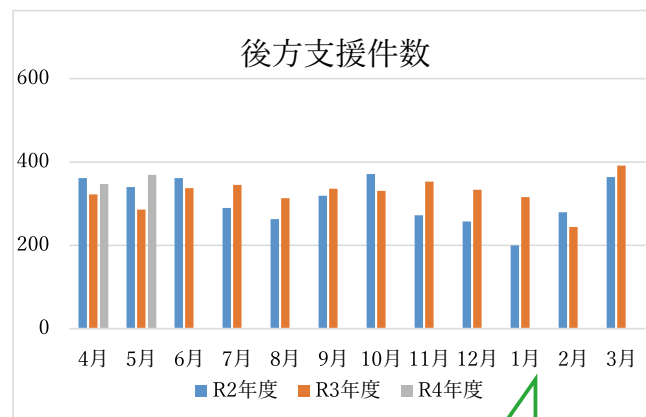
入院時多職種カンファレンスを毎週各病棟で実施しており、患者様の退院に向けた目標を多職種で共有しています。また、入院センターで退院スクリーニングを実施し、退院支援が必要と判定された患者様に対し、地域医療連携室のスタッフが対応し患者・家族様と共に退院支援計画を立案し説明しています。

前方支援：主に転院受け入れ調整



R 2 年度はコロナにより減少していましたが、少しずつ転院受け入れが増えています。

後方支援件数：MSW介入事例



転院や施設入所、自宅退院調整をしています。対応件数が、増えています。

《WEBによる退院前カンファレンス》



WEBによる退院前カンファレンスも行っております。

着任ご紹介



脳神経内科医師 守屋 和起

4月付けで脳神経内科に着任いたしました。これまで兵庫や京都で急性期病院に勤務し、てんかんの研究をしてまいりました。神経・筋疾患や変性疾患の患者様の治療やケアなど、当院の強みを生かして多面的なサポートができるような診療を心がけていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

ことのはクリニック

神戸 大介 院長

当院は、令和4年6月に奈良市六条で開院しました。開院するまでは十津川村でへき地診療に従事してきました。「ことのは（言の葉）」は、言葉を意味する大和言葉です。言葉を大切に、患者様と向き合い『寄り添う医療』、気軽に受診・相談していただける『かかりつけ医』を目指します。地域のクリニックでは、『専門性』を持ちながらも『総合力』が問われると考えています。消化器内科医として培った『専門性』と、へき地診療で養った『総合力』の両立を常に考えながら診療にあたります。また、診療所と病院、医療と介護の密なネットワークを構築して、安心して暮らせる地域作りを考えています。何かとお世話になることが多いと思いますが、宜しくお願いいたします。

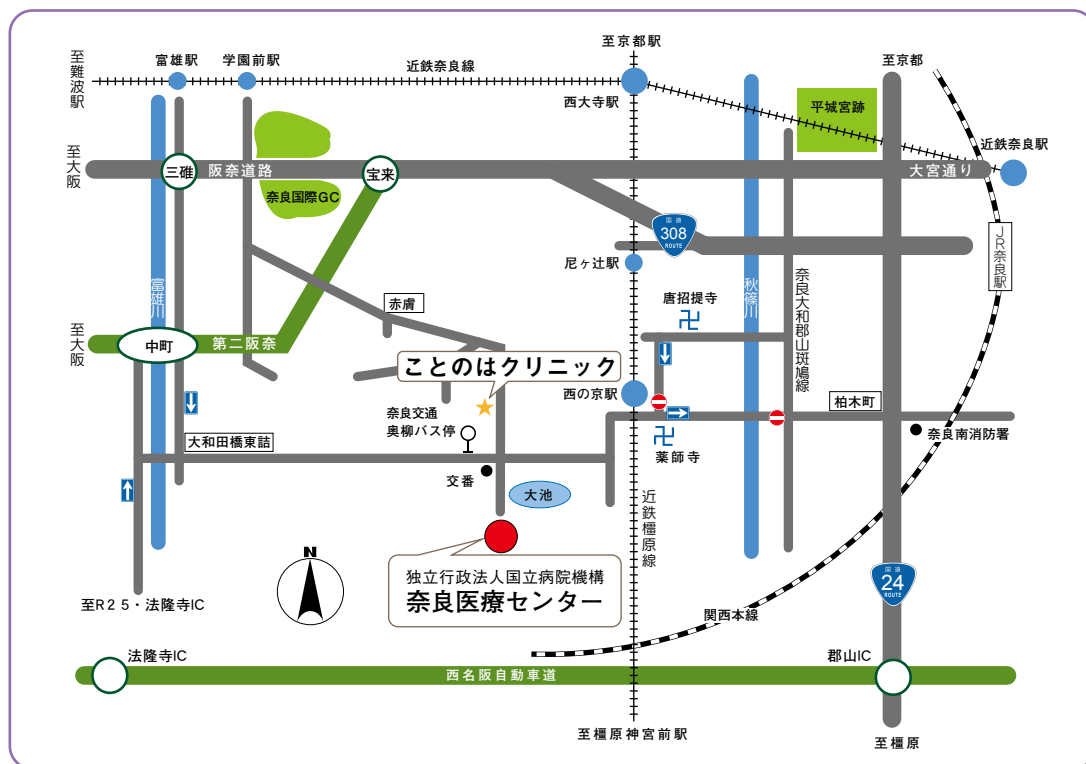
診療科目：内科・消化器内科・リハビリテーション内科

診療時間：月・火・水・金・土曜日 午前診 9:00～12:00

月・火・水・金曜日 午後診 16:00～19:00

休 診：木曜日・日曜日・祝日

T E L：0742-52-8823



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
奈良市七条2丁目789
TEL.0742-45-4591（代表）
TEL.0742-45-1563（直通）
FAX.0742-45-4901（直通）